

優秀賞

目には見えない生活の支え

東京都 創価中学校 三学年

平野 絵理

私たちには、目には見えない生活の支えがあります。私は、生命保険というものに対して、一切興味を持っていませんでした。ですが五年前、生命保険の大切さを知ることになったのです。

いつも通りに過ごしていたある日の夜、一緒に暮らしていた祖母が体調を崩してしまい、急遽入院することになりました。あまりにも突然すぎることであったため、動揺を隠さずにはいられませんでした。その後、私は連日にわたって入院手続きなど様々な作業をしている両親を見ていました。両親の会話の中には、「おばあちゃんは、介護保険と、……保険に入っているから、こんなにお金がかかることはないね。」

などと、当時の私にはさっぱりわからない、理解できない会話がありました。今になって、その意味がわかるようになってきました。母から保険についての話を聞いてみたり、社会の授業で学んできたり、保険についてよく調べるようになりました。今の私たちの生活と保険の関係性や種類などを調べていくうちに、自分自身にも深いつながりがあると知りました。そして母は、

「あの時、おばあちゃんが保険に入ってくれてなかったら、私たちはいつもの生活はできていなかったんだよ。入ってくれていたから、私たちの生活は守られた。」

と、話してくれました。祖母が入院したとき、目には見えないものではあったけれど、もしもの備えがあったから、生活の支えがあったから、私も母も、快適な毎日を送ることができたのだと思います。この体験を通して、私は、生命保険の「見えない支え」があるから、今を思う存分生きることができているのだと気付きました。

私たちは今何も不自由なく、家族と、友人と毎日を過ごし、学ぶことができている環境にいます。どんな当たり前のことでも、それはものすごく尊いことです。私の安全と健康を思って私を保険に入れてくれた両親、生徒に安心して学校生活を送ってほしいとの思いで保険の準備をしてくれた学校。このように、私たちはたくさんの人に支えられて生きています。自分のためだけの自分ではありません。私たちは人の支えになるため、人の思いに応えるための一人ひとりです。こうして生きていくことへの感謝を絶対に忘れてはいけないと私は思います。

東日本大震災のときも、家や家族、全ての物を失い、一つひとつ取り戻して

第54回中学生作文コンクール

きた人もたくさんいます。これも様々な保険があったから、今を生きている人が多いのかもしれない。生命保険とは、生きることへの保険です。生きることへの切実な願いであり、精一杯生きている証です。

今は亡き祖母は、最後の最後まで生きてくれました。私の入学式が終わるのを懸命に待っていてくれました。生命保険というものが、私たち家族という「生命」を、「心」をつないでくれました。私は、今でも思うことがあります。目には見えない生活の支えがあるからこそ、私たちはたくさんの人とつながって生きていくんだと。